

松ノ木内湖におけるホンモロコ種苗放流調査

三枝 仁・太田豊三・大澤宏史

1. 研究目的

ホンモロコの増殖水域として松ノ木内湖が適しているかを検討するため、ホンモロコ仔稚魚の出現状況を調査するとともに、標識したホンモロコ発眼卵を放流して追跡することで、仔稚魚の成長と移動の知見を収集した。

2. 研究方法

平成22年5月21日から7月15日にかけて4回、松ノ木内湖の5定点で小型ビームトロール網を操業し、ホンモロコ仔稚魚を採捕した。また、平成22年6月7日には、松ノ木内湖に流入する河川の河口付近に、ALC標識したホンモロコの発眼卵100万粒を放流した(図1)。本調査で採捕した仔稚魚は、体型を測定するとともに耳石を取り出して観察し、ALC標識の有無を確認した。

3. 研究結果

調査日ごとの採捕数を見ると、5月21日が17個体、6月17日が533個体、7月1日が64個体、7月15日が24個体と、4回の調査日全てでホンモロコ仔稚魚が採捕されていた。発眼卵放流魚は、放流実施前となる5月21日を除く3回の調査で再捕されていた。

仔稚魚が多く採捕された地点は、調査日ごとに異なったが、5月と6月では内湖でのみ採捕されていたのに対し、7月の2回では河口部でも採捕されており、このころに稚魚が内湖から出て行くことが示唆された(図2)。

また、卵で放流した標識魚は、調査日ごとにサイズが大きくなり、内湖で成長していることが伺えたが、総じて天然魚と比べて小さかったことから、天然魚の産卵が6月7日以前に行なわれていたことが考えられた(図3)。

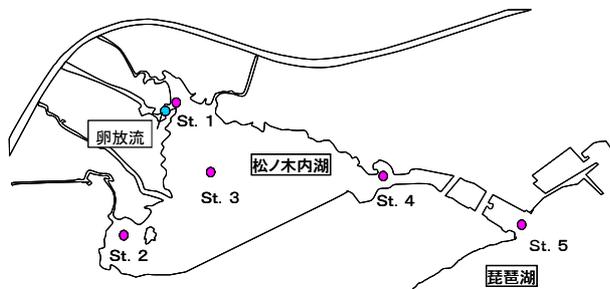


図1. 調査定点と卵放流地点

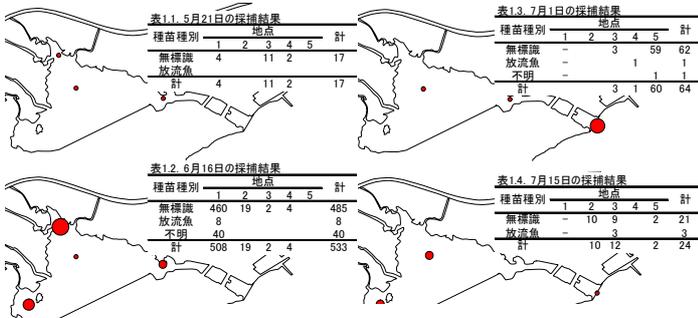


図2. 各調査日の地点別採捕尾数

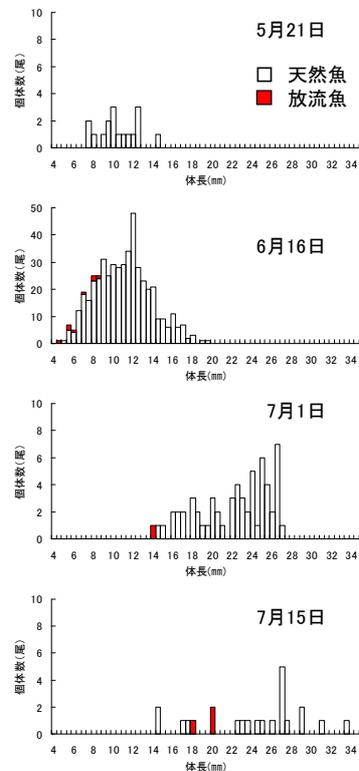


図3. 天然魚と放流魚の体長組成